

学校 教育 目標	夢に向かってともに歩み 未来を拓く 日下小学校 知: 考えて よく励み やりぬく子を育てます。 徳: なかよく つよく のびゆく子を育てます。 体: 健康な肩を組み 互いのいのちと体を大切にする子を育てます。 公・開: 自立の意気を見せ 日本の明日を担う子を育てます。				
学校 概要	創立 124 周年	学校長 世取山 実義	副校長 千田 朋子	2 学期制	一般学級: 19 個別支援学級: 5
	児童生徒数: 591 人 主な関係校: 主な関係校: 笹下中学校、上大岡小学校、南台小学校				

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	〇〇中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
〈自分づくりに関する力〉 〈他者との関わりに関する力〉	笹下中学校 南台小学校 上大岡小学校	○他者と関わりながら、共に学び、自分や社会の未来を創造する子ども ・子どもたちが9年間で身に付ける資質・能力について共通理解するため、「ぐるぐる」を活用する。 ・「ぐるぐる」を基盤とした各校の特色を生かすカリキュラムマネジメントを推進するため、担当者間での連携を図る。 ・教師の授業改善、子どもの学習改善につなげるため、合同授業研究会で、資質・能力の実現状況を子どもの姿で協議する。 ・職員の人権感覚を磨き、すべての教育活動を通して人権指導をしていく意識を高めるため、合同で人権研修会を実施する。

中期 取組 目標	・教職員は、子どもがいきいきと自信をもって学べる学校づくりを推進します。 ・地域のあいさつ運動と連携して、自ら進んであいさつができる子どもを育てます。 ・たてわり活動を通して子どもが自分のよさや友達のよさを認め合い、高め合えるように寄り添った指導をします。 ・地域の教育力を活用し、子どもに豊かな教育活動が提供できるようにします。 ・児童指導の課題、いじめ防止について教職員で共有し、チームで対応する体制づくりを整えます。
----------------	---

重点取組分野	具体的取組
知 生きてはたらく知	○児童が知識・技能を見付けるとともに、それらを活用して主体的に課題づくりを進めます。学年研や重点研、メンター研などを軸に、同僚性を高めていきます。個別最適な学びを学年段階や児童の実態にあわせて進めます。 ○R7年度からの情報活用指導計画に沿って、系統的に指導していけるように、年度初めに内容を確認する。
担当 評価・重点研究委員会	
徳 豊かな心	○教職員が日ごろからあいさつについて指導をすることで、あいさつが自然にできる児童の育成を目指します。代表児童によるあいさつ運動をとおして、自発的なあいさつが全体に広がるように推進します。 ○特別な教科道徳の授業において、道徳的価値をしっかりと捉え、友達と高め合えるように指導します。 ○たてわり活動では、各学年のめあてを意識して活動し、自己有用感を育むとともに、他学年のよさを認め、尊重する気持ちを育てます。
担当 児童指導委員会	
体 健やかな体	○体育の授業づくりを工夫して行い、進んで運動に取り組める子の育成に努めます。 ○日々の体育学習や休み時間の過ごし方の指導、委員会活動などを通して積極的に運動する機会を設定します。自分や友達とのかかわりかたや食育、健康保持について意識を高めます。
担当 体育部	
公 開 地域連携	○学校教育の様々な場面で地域の教育力を活用し、子どもに豊かな教育活動が提供できるようにします。 ○学援隊と連携して、登下校の子どもの安全見守りを協力して行います。
担当 教務部	
いじめへの対応	○毎月のいじめ防止対策委員会で、教職員で情報共有し、いじめの早期発見と迅速な対応に努めます。また、小さな事案でも丁寧に指導することで児童のいじめ防止に対する意識を高め、未然防止に努めます。さらに、学校での取り組みを、学校だより等で保護者へ情報発信するよう努めます。 ○児童に生活アンケートを年2回実施し、実態把握をすすめ、早期対応に努めます。
担当 児童指導委員会	
人材育成・組織運営(働き方)	○メンターチーム研修を定期的に行えるように位置付け、年間活動経営を全体で共有し、学級経営や授業づくりについてのレベルアップを図ります。 ○研修や会議を効率化していき、働き方改革を進めていきます。 ○学年研究会を充実させ、教材研究、学習評価等共有することで授業づくりの効率化と授業力向上に努めます。
担当 教務部	
特別支援教育	○個別支援級担任は、交流しているクラスの児童に個別支援級の学習や、交流している児童の目標について、必要に応じて個別の指導計画や支援計画を共有して話をします。また、交流級児童と個別支援級児童が互いに理解を深め尊重し合えるよう、担任同士で連携を図っていきます。 ○取り出し指導(マイチャレ)やT・Tの仕方を工夫し、一人ひとりのニーズに合った学習支援に取り組みます。 ○国際教室では、学習や生活面で課題のある外国籍や外国につながる児童に必要な支援をしています。国際教室担当は、支援対象児童や内容について職員に共有していきます。
担当 特別支援委員会	
児童生徒指導	○一つひとつの事案に丁寧に丁寧に対応し、児童に寄り添った指導を行います。また、打ち合わせなどで、気になる児童の情報を共有し、職員全体で児童の課題を把握します。迅速な対応を心がけるとともに、チームで児童の課題解決に取り組めるよう努めます。 ○日下小スタンダードを全職員で共有し、同じスタンスで指導することで、児童にルールやきまりを守る姿勢を育てます。
担当 児童指導委員会	
自分づくり教育	○たてわり活動や集会を通して、小学校生活6年間で自分のよさや友達のよさを認め合い、それぞれの役割や相手を尊重する気持ちを育て、達成感を味わうことで自己肯定感を高めます。 ○各学年ごとに目標を設定し、振り返り活動をすることで自分の成長を実感したり、見直したりできるように記録を残していきます。(自分づくりパスポート)
担当 たてわり、評価委員会	
人権教育	○子どもたちとともに学年目標を話し合い、それぞれの発達段階に応じた日々の活動や内容を具体的に考え、人権意識を高めています。 ○教師が児童を認めることで自信と意欲につながり、児童同士で認め合う活動を充実させたりしながら、自己有用感を育みます。 ○教職員の人権意識を再確認・向上させるために、望ましい態度のあり方などを教師間で確認したり、研修に取り組んだりします。
担当 人権教育委員会	